ハルビン市中央大街・町並み保存の現状と課題：ファサード復元からの考察

PROBLEMS OF HISTORIC PRESERVATION ON HARBIN ZHONGYANG STREET VIEWED FROM CHANGES OF FACADES

孔 慶権 — * 1 福川裕一 — * 2

QingQuan KONG — * 1 Yuichi FUKUKAWA — * 2

キーワード：
ハルビン中央大街，歴史的建物，歴史保存，ファサード

Keywords:
Harbin Zhongyang Street, Historic buildings, Historic preservation, Facade

In this paper we are going to evaluate historic preservation of Harbin Zhongyang street, a historic main street formed in the beginning of 1900s, and find the principles we should take for the next step. Harbin Zhongyang street has been conserved and improved since 1997. We acquired old photos of the street and drew the facades of the buildings of the day and compared the present facades. As the result we found that even the preserved buildings have been changed in many points, inappropriate repairs have done and new developments have not inherited the patterns or characters of historic buildings.

1. はじめに

20世紀はじめにロシア支配下で建設され、西洋式の建物が多く遺っていることで知られるハルビン市中央大街^{注1)}では、1990年代より町並み保存の動きが始まり、3回にわたり、大がかりな建物の修理・修景、そして街路環境の整備が進められてきた。その結果今日では、ハルビンの目抜き通りとして市民や観光客で賑わっている。しかしながら、都市開発の強い圧力のもとで、歴史的な建物の保存や修理が的確に行われてきたかどうか疑問がある。単に様式を模倣した新しい建築もつくられてきた。そこで本稿では、古写真等によって、オリジナルの建物を復原し、現状と比較することを通して、これまでの町並み保存の問題点を明らかにする。そして、ハルビン市中央大街の町並み保存の今後のあり方について考察する。

既往研究としては、増原城一らなどによるハルビンの国際商業都市としての都市形成、その空間変容についての分析・考察（参考文献6）、俞らなどによる中央大街の歴史、伝統空間、現状の分析及び改造・更新に関する研究（参考文献7）がある。本研究は、これらに対して、ファサードの復原・考察を通して、中央大街の問題に寄与しようとするものである。なお、作図はすべて筆者らによる。

2. ハルビン市中央大街

中央大街は、ハルビン市道里（埠頭）区の中央に位置し、南経緯街、新陽広場から松花江ほとりのスターリン公園に向かう、北洪水防止記念塔広場までの東西に延びる全長約1450m、幅21.34mの通りである。1898年に運送道路として建設され、当時はキタイスカヤ（中国大街）通りと称していた。この頃の町並みは1～2階建ての中国の伝統的な商家からなっていた。

その後、道里区は、河港と鉄道の結節点として急速な発展をとげ、西洋式ビルが建ち並ぶようになった。1909年の松浦洋行がその嚆矢で、以降1930年代半ばまで建設ラッシュが続き、今日見る町並みが形成された。1925年には名称を中央大街と変え、ハルビン随一の繁華街となった。

1940年以降は、戦争と革命により経済は停滞、大きな変化はなかったが、1960年代半ばに始まる文化大革命で、歴史的な建物はブルジョアの象徴として、特に装飾が破壊の対象となった。たとえば、教育本屋となっていた旧松浦洋行では、人物彫刻、柱、壁など7ヶ所の装飾が破壊された（人物像だけ1986年に修復、図1）。1970年頃から建設活動が再開するが、歴史的建物が尊重されることはなく、無秩序に増築するケースがほとんどであった。1980年以降、歴史的建物への関心が高まるが、この時期以降は都市開発ブームとも重なり、大規模な改造や再開発により約6割の伝統的な建築物が取り壊された。

現在、中央大街の両側には全部で61棟の建物がある。そのうち、歴史的建物は25、うち法律による「保護建築」は16で、それ以外は80年代から造られた様式を模倣した建物、モダニズム建築である。なお、通りの背後を含む保護地区には、歴史的な建築物が50棟あり、うち20棟が法律による保存建物となっている。政府は今後これを26棟に増やす計画である。

3. とられてきた保存政策

ここで、歴史的町並みを保存するようになった経緯と保存政策の内容をまとめておく。（）内は月または月/日。

- ・1984年：都市開発が盛んになりだした状況に対し、町並み保

¹⁾ 千葉大学大学院自然科学研究科大学院生 教育学修士
(〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33)

²⁾ 千葉大学大学院工学研究科建築都市科学専攻 教授・工博

¹⁾ Graduate Student, Dept. of Science and Tech, Chiba Univ., M. Teaching.

²⁾ Prof., Graduate School of Engineering, Chiba Univ., Dr. Eng.

存活動が始まる。歴史的な建築の調査、登録、認定及び一部の修繕などが行われた

- 1986 年：ハルビン市、中央大街を保存街路とする方針を打ち出す
- 1994 年：中国政府、ハルビン市を「国家歴史文化名城」に指定
- 1995(6) 年：ハルビン市、名城保護の総体計画（マスタープラン）として「ハルビン歴史文化城保護計画プロジェクト」を作成
- 1996 年：ハルビン・汪光焘（おう・こうどう）市長、中央大街を歩行街化する「中央大街歩行街空間環境計画方案」を提案。第一回中央大街の整備が始まり、以下を実施：
 - 1) 国内外専門家の建議を聞き、参考にする
 - 2) 伝統的な建造物に対し全体デザインと看板などを設ける
 - 3) 中央大街両側の 13 棟を保存建物に指定、うち 11 棟を修繕
 - 4) 両側歩道を整備。街灯（121 本）、緑化（15 ヶ所）、電話ボックス、道標などを更新
- 1997 年：「ハルビン市保護建築、街坊、街道及び地区の管理方法」を発布・実施（1/2）。7 章 34 条からなり、主な内容は以下の通り：
 - a. 保護建築、街坊、街道及び地区の定義
 - b. 保護と利用の両立を原則とする
 - c. 保護建築を、芸術価値、特色、歴史意義などにより 1、2、3 類に分類する
 - d. 保護街坊内について、もとの平面配置、造型、色彩、緑化及び付属設備の保持を義務化、新たな建築物の建設、取り壊しを禁止。改築・増築の場合、高さは 10m 以下、建築面積は

図 2 保護街道周辺の高さ規制（網：1997、実線：2001）

280㎡以下。

e. 保護街道では、伝統的建物のもとの形、空間、色彩、特色を保持し、外部に装飾、設備、広告などを取り付ける場合、全体を調和させる。通りからの距離に応じて、建物の高さを制限（図 2）。

f. 保護地区では、伝統的建物のもとの平面配置、設備、特色、緑化及び彫刻を保持し、外部に装飾、設備、広告などを取り付ける場合は全体を調和させる。また、建物を改築・増築する場合も環境や景観と調和させる。

g. 違反した場合の罰金。

- 1997 年：「ハルビン市中央大街歩行街区管理方法」を発布（5/15）、施行（6/1）。31 条からなり、内容は以下の通り：
 - a. 直ちに町並みの一部（西二道街～十四道街）860m を歩行街に指定、歩行者へ開放する。
 - b. 中央大街両側では、歴史的建物の形、空間、特色を有する伝統的な建築、設備、舗装などを保持する。
 - c. 中央大街両側に面する建築物のファサードと看板の面積、

図 1 変化の例「あまり変化していない場合」（左：松浦洋行復原、右：現在・教育本屋）

角の二階二つ人物彫像は、文化大革命時期に取り壊され、1986 年に修復されたが人物像の下部の装飾が十分修復できていない。

表 1 建物リスト（上段：東側、下段：西側） 218、220、232、257 の従前建物の詳細は不明。200 は略（セットバックした集合住宅）

番地	a	b	現 名	階数	旧 名	竣工	階数	保存	様 式	注 記
1	①	*2	市教育局		仏国万国蓄金会	1925	3	2	模倣古典	3 階増築、ドア上持送り、ゲートルを失う
3		R	招商銀行	6	信済銀行	1927	3		AD	3 つの建物を前 3 階、後 6 階へ新築
					不詳	*	1		折衷	
19		R	招商銀行	4	不詳	*	1		折衷	
21	③	*2	黒竜江省商業庁		アグロフ洋行	1923	4	2	折衷	1951 年に 4 階を増築
23		R	宝豊菜屋	6	アメリカ保険会社	1925	2		模倣古典	
31					ベント兄弟商会	*	3		模倣古典	
41		R	江海証券会社	5	不詳	*	1		折衷	
43					不詳	*	1		折衷	
47		R	金帝商店	1	空地	*				
49	⑤	*1	ワニ専売店		不詳	*	2	無	折衷	
51	⑧	*3	GIORDANO 専門店		松濱飯店	*	2	無	折衷	ファサードをモダニズムへ改装
53		R	紅博買い物屋	3	恵康ナイロン荘	1921	1		折衷	
61	⑨	*2	女性用品屋		ユダヤ銀行	1923	2	2	模倣古典 R	鉄製の欄干失う
63	⑩	*3	金安国際デパート	2	不詳	*	2	無	折衷	キッチュを経、2003 年にアールヌーボーへ修景
		R		2	不詳	*	1		折衷	
73	⑪	*1	婦人子供用品屋		協和（コンコルド）銀行	1917	2	2	模倣古典 R	
77		R	セリスデパート	4	商店	1906	1		折衷	
85		R	美しいお嫁写真屋	4	コーヒー屋	1912	2		模倣古典	
89	⑬	*1	モダルンホテル		モダルン・ホテル	1913	3	1	AN	1906 初建、1913 北増築、1993 裏増築
101	⑯	*1	石頭記		永〇祥商店	*	2	無	折衷	↑設計：C・A・ウンサス
107	⑱	*1	道里秋林商店		チューリン洋行道里支行	1910	3	1	AN	角入口ドア、ゲートル改造、バルコニー増築
111	⑲	*1	土曜日靴屋		ラビノビチビル極東銀行	1919	3	2	折衷	ゲートル装飾失う、ドーム増築
121	㉑	*1	香港キツツキファッション		同昌下着会社	1935	2	3	Ch+R	
127	㉔	*2	ハルビン市金物屋		A.P. ヘルクウェキビル	1907	3	2	折衷	1915-20 増築、80 年代角入口やめ人物彫像設置
131		R	ヴィーナス写真	7	不詳	*	1		折衷	↑設計：トルニス、
139		R	万象城	20	不詳	*	2		模倣古典	
					不詳	*	2		折衷	
167		R	レンカフ百貨店	9	不詳	1922	4		折衷	
					不詳	*	2		折衷	
185		R	金谷ビル	25	不詳		2		模倣古典	
191	㉖	*1	ハルビン市江沿小学		チューリン百貨店支店	1914	2	2	模倣古典 R	1 階テラス下の持送り、屋上の手すり失う
199		R	蘇寧電気店	4	不詳	*	1		不詳	
257		R	凱萊ホテル	6	不詳	*	1		不詳	従前建物の詳細は不明。3 街区を併合、超大間口
2	②	*2	メガネ屋		ハルビン一等郵便局	1914	3	2	折衷	1980 年代、3 階を増築
18		R	康泰菜屋	5	不詳	*	1		折衷	
32	④	*1	中大ホテル		ハルビン市特別公署	*	4	無	折衷	1 階柱失う、ドーム増築、ゲートル改造
36		R	KTV 店	3	不詳	*	3		折衷	
38	⑥	*1	報喜鳥		ジング・ミシン商店	*	2	無	AN	
40		R	申格スポーツ専門店	8	不詳	*	2		折衷	
50	⑦	*1	匡威専門店		不詳	*	2	無	模倣古典 R	
58	⑫	*2	ハルビン撮影屋		カフェ・ミニアチュール店	1927	2	1	AN	代表的な輪飾り装飾、人物彫刻失う
66		R	松雷国際デパート	5	不詳	*	3		模倣古典	
70		R	不詳	4	不詳	*	3		折衷	2009 年改造中
					不詳	*	2		折衷	
92	⑭	*1	中央大街薬店		ノゴラヴィアン繊維商店	1921	3	3	模倣古典	色彩が変わった
98	⑮	*1	老上號		ベトロフ商店	1917	4	無	模倣古典	内部、ドア改造
100		R	中央デパート	6	アキシヤフ兄弟商会	1910	2		AN	
					時計屋	1905	1		AN	
104	⑰	*1	逸品商店		Y.H. アキアレクセーエフ洋行	1930	2	3	AN	様式を変える、ゲートルに人物彫像付加
108		R	恵鴻デパート	9	中央ホテル	*	3		模倣古典	
112		R	華梅レストラン	3	マルスチョコレート屋	*	1		折衷	
118		R	中央本屋	7	孔氏銀行	1926	2		AN	
120	㉒	*1	教育本屋		松浦銀行	1909	5	1	模倣古典 B	設計：A.A. ミアクフスキー、壁の細部装飾失う
122	㉔	*1	秋林国際デパート		不詳	*	3	無	模倣古典	
132	㉖	*2	黒竜江省機電設備会社		万国銀行	1922	2	2	折衷	1930 年代に 2 階増築、窓改造
136		R	イタリア・フランス洋服店	3	チコスタン映画館	1906	1		AN	
138		R	建設銀行	3	商会	1915	2		折衷	
158		R	ソフィヤ買物デパート	7	不詳	1924	3		AN	
160		R	天植ホテル	6	華栄	1924	3		折衷	
178		R	金夫人写真屋	4	不詳	*	1		折衷	
198		R	ロシアデパート	5	不詳	*	1		折衷	
218		R	工商银行	29	不詳	*	2		折衷	従前建物の詳細は不明
220		R	百盛デパート	6	不詳	*	1		不詳	従前建物の詳細は不明
232		R	万達電気	7	影星写真館	*	1		不詳	従前建物の詳細は不明

a: 図 3 の歴史的建物にふられた番号、b: 変化の程度 (R: 建て替え、*1: あまり変化していない、*2: 中くらいの変化、*3: 変化が大きい)、現名/階数; 建て替えられた建物 (R) で一番高い棟の階数、様式: R: ルネサンス、B: バロック、AD: アールデコ、AN: アールヌーボー、Ch: 中華 *不明

色彩、材料及び様式を、歴史的な町並み・建築に調和させる。

- 同年：中央大街歩行街区管理处（管理事務所）創立（6）、歴史的な町並み風貌回復のため一部建物を修繕・修復する活動を重要地区で開始（8）。
- 2001 年：ハルビン市人民代表会議「ハルビン市保護建築物と保護街坊の保護条例」を可決（8/23）、実施（12/1）。1997 年の「ハルビン市中央大街歩行街区管理方法」は廃止。7 章 50 条からなり、具体的な保護ルールを規定。以前より 16 条増えたが、基本的な内容は変わらない。相違点は以下の通り：
 - a. 保護街区の概念を追加
 - b. 歴史的建物の保護範囲に色調を追加
 - c. 保護街道両側の高さ規制を 1997 年規制より強化（図 2）
 - d. 罰則制度を強化
- 2003 年：ハルビン市都市計画局「中央大街環境総合整備工事の計画」を決定（6）、二回目の中央大街町並み総合整備を実施。25 横町を含む保存地区の公共空間を広げる計画で、中央大街、横町、街区に分けて整理。歩道を拡幅し、休憩場所を増やした。具体的には以下の通り：
 - a. 1450m 全体と一部横町を歩行者天国とする。
 - b. 中央大街両側の 17 棟の歴史的建物を保護建築に指定。保存された歴史的建物を含む 56 棟のファサードを改造・修繕
 - c. 両側に休憩所 6 ヶ所を設置
 - d. 両側建築物全てに照明を設置
 - e. 一部道路を修繕・更新、彫刻（2 ヶ所）、入口の看板（1 ヶ所）などを設置。
 - f. 本地区の歴史、文化の特色を重視した様々なイベントを開催
- 2004 年：ハルビン市、25 横町を中心に第三回総合整備。中心部の紅專街、東風街、大安街、西八道街が整備された。
 - a. 各街路の機能的なゾーニングを確立
 - b. 建築について以下のように特徴を造り出す：
 - ・四つの横町を中央大街に調和させる
 - ・横町ごとに風格を一致させる
 - ・西洋様式に改造、処理する
 - ・建物の色彩はハルビン市の伝統的な色彩に合わせる
 - c. 四つの横町を環境保護カラータイルで舗装。彫刻（4 ヶ所）、噴水（1 ヶ所）、緑化（4 ヶ所）、街灯などを整備。
- 2007 年：新たな「ハルビン市中央大街歩行街区管理方法」を発布（8/22）。1997 年の「ハルビン市中央大街歩行街区管理方法」は廃止。2 条増え 33 条となる。基本は変わらず、相違点は以下の通り：
 - a. 歩行街を洪水防止記念塔広場まで延長する
 - b. 中央大街を横切る通過道路を一本廃止（紅星街、西十四道街）
- 2008 年：中央大街と友誼町の交差点に地下歩道を建設（6）
- 2009 年：「ハルビン市歴史文化名城保護条例」を公布（11/24）、実施（2010/1/1）。

4. 復原から見出される中央大街の特徴

黒竜江省およびハルビン市の図書館が所蔵する古い写真と絵はがきを使って、町並みの復原を行った。これら写真は、中央大街がも

っとも盛んであった 1900 年代初めから 1930 年頃に撮られたもので、東の花圃街、西の上游街から南についてどのような建物が建っていたかをほぼ復原できる（以下の集計はこの部分を対象とする）。

復原によって得られる中央大街の建物の特徴は、現存する建物から想定されるものと大きく変わらない。

- 様式では、アールヌーボーが特徴的であり、同じハルビンの靖宇街に多いいわゆる「中華バロック」は少ない。なお、様式の分類でもっとも多い「折衷」は、中国と西洋の折衷という意味で、デザインとしてはこれといった特徴の乏しい中庸な建物をさす。
- 通りに面する街区の間口が小さいため、角地に建つ建物が多く、コーナーのデザインに力が注がれている。
- 角地に建つ建築のすべてが、コーナーに出入口を設け、ドームを冠する場合も少なくない（9 例）。
- ゲーブルの多様がもうひとつの特徴である。ゲーブルは、コーナーの上には必ず設けられるほか、ファサードの中央や入口の上の設けられる。
- 角地に建つ場合が多い結果、建物全体がシンメトリーになることは少なく、部分のシンメトリーが重なるいわゆる「Local Symmetries」が実現している^{注2)}。このことが、建物そして町並みに生き生きとした躍動感を与えていることは明らかである。

「中華バロック」という言葉があるように、ハルビンの様式は「何でもあり」と捉えられがちである。それでも、個々の建物では一定の様式の原則のもとに秩序あるデザインが行われており、それがハルビンのもうひとつの町並み保存地区・靖宇街とは異なる中央大街の特徴といえよう。

5. 町並みの変化とその評価

ファサードの復原と現状の比較から見出される変化を、変化の程度によって 4 つに分け、考察する。

5.1. 建て替えられた場合

1930 年代にあった 63 棟のうち、遺っている 25 棟のほかは建て直された。表 1 では b の欄に「R」と表示した。建て直しにあたって、いくつかは複数の敷地をまとめ規模を拡大した。特に間口の大きい街区では長大なファサードが生まれ、町並みのリズムを崩した（218 番中国人民銀行道里区支行、257 番凱萊ホテルなど）。うち 2 例は建物全体をセットバック、前面に空地を設け町並みの連続を壊した（100 番中央デパート、200 番集合住宅）。あるいは、背後へ敷地をのぼし、高さ規制に従って、奥に高層建物を配置した（185 番金谷ビル、167 番レンカフ百貨店、139 番万象城、3 番招商銀行など）。そのいくつかは、2000 年の高さ規制はもちろん、1997 年の規制も超えている。建て替えられた建物の正面のファサードは様

表 2 1930 年頃の様式の分布

	現存	復原	合計
古典リバイバル	9	6	15
アールヌーボー、アールデコ	5	7	12
折衷	10	23	33
中華バロック	1	0	1
不詳	0	2	2
合計	25	38	63

建て替えの場合

⑩ (63 番)

⑬ (89 番)

1913 年の増築

変化が大きい場合

② (2 番)

⑧ (51 番)

⑤ (49 番)

① (1 番)

変化が中くらいの場合

⑬ (104 番)

保護建築

保護されていない歴史的建物

破線：高さ規制のライン、街路側から 15m、20m、34m。図 2 参照

あまり変化していない場合

⑬ (107 番)

⑨ (61 番)

図 3 中央大街の歴史的建物とファサードの変化

式を適当に模倣したポスト・モダン（キッチュというべきか）がほとんどで、多くは歴史的建物の様式に備わる繊細さを欠いている。

巨大化した建物の特徴は、全体を強いシンメトリーに組み立てていることである。この属性は、歴史的な建物の「Local Symmetries」とはまったく相容れない。

様式の模倣でも慎重にデザインされた例がある。アールヌーボーを模した63番、現在の金安デパートである（図3⑩）。1990年頃、古典様式を模したキッチュな建物へ建て替えられたが、2回目の整備（2003）で、現在の姿になった。過度のシンメトリーも避けられている。オリジナルの建物はアールヌーボーではないが、様式は注意深くつくれば、今日でもそれなりの建物になることを示していると言えよう。なお、このときは、ガラス面の目立った大規模な建物についても、ガラス面を減らす大規模なファサードの改修が行われている（100番中央デパート、131番ヴィーナス写真）。

5.2. 変化が大きい場合

表1では「*3」と表示した。建物の本体は保存されているが、①階数を変えるなどの増築が行われている場合、②様式をまったく変えた場合がこれにあたる。前者では、2番のもとハルビン一等郵便局がこれにあたる。2階建てを3階建てへ増築したが、高さと同口の比がちょうどよくなり、ファサードのデザインも以前のイメージを上手に継承している（図3②）。1番市教育局も、1951年に2階から3階へ増築しているが（図3①）、同様に評価できる。様式を変えた例としては51番、もと松濱飯店があげられる。年代は不詳だが、ファサードがモダニズムへ改装された（図3⑧⑤）。

当然ながら、増築は、20世紀はじめの町並み形成期にも繰り返して行われていた。89番は北にアールヌーボーの三階建て（1906）、南に2階建て（建築年不詳）があったが、1913年に南の棟を3階建てへ建て替え、南の棟と一体化した（図3⑬）。中央にゲブルのついた大きな入口を設け、ふたつの棟をつないだ。南北のデザインは柱間やコーナーの扱いなどが異なるが、かえって豊かな表情の建物が生まれた。このように、適切な増築は、デザイナーの腕によっては町並みを豊かにする可能性がある。

5.3. 変化が中くらいの場合

表1では「*2」と表示した。建物の本体は保存されているが、部位の変更でオリジナルな様式を変えてしまうような改装が行われたものが含まれる（58、104、130番）。たとえば104番は、もともとアールヌーボーであったが、ゲブルを具象の人物像へ、オーダーの柱頭を古典的なコリント式へ、そして屋上の手すりを変更した（図3⑰）。窓など基本構成は変わっていないので、さまざまな様式の入り交じったチグハグなデザインへ変わった。

これらの変化は、一見すると見過ごされがちである。しかし、一定のバランスの上に成立してデザイン総体を、わけの分からないパーツの寄せ集めにしてしまい、歴史的町並みの価値を減じている。

5.4. あまり変化していない場合

表1では「*1」と表示した。建物の本体も、さまざまな部位も全体としてはよく保存・修理されているケースである。しかしオリジナルと比較してみると、細部が変化している例が少なくない（111、

122、191番）。典型例は、前の方でもとりあげた122番教育本屋（もと松浦洋行）である。中央大街で最初に建設された本格的な様式建築であり、今日なお重要な位置を占めるこの建物は、人物像、柱、壁など7ヶ所の細部装飾が破壊されたままである（図1）。バロック様式の、壁面を埋め尽くす装飾の一部がなくなっているわけで、その本来の美しさが損なわれている。107番道里秋林商店は、ゲブルを下層階のアールヌーボーに合わせて改造すると同時に、コーナー1階の入口を廃止した（図3⑱）。

6. 結論

3回にわたる整備で、すっかり町並みの修理と保存、そして景観のコントロールが成功しているように見える中央大街であるが、本来建っていた建物を復元し今日と比較してみると、オリジナルとは異なる安易な修復や模倣が多く見出され、町並みの価値が損なわれている。これに対し、今後の町並み保存のあり方として、今回の作業から次のような指針が得られる：

- ・歴史的な建物については、そのすべてを「保存建築」とし、これ以上の破壊を防止する必要がある。そして調査をもとにより正確な修理が行われるべきである。
- ・新しい建物は、歴史的な町並みのスケールやリズムが守られる必要がある。セットバックを避け壁面線や軒線（コーニス）を守る必要がある。また、ファサードは、様式に拠る場合は、正確な復元または中央大街のデザインを十分に研究した上でのデザインとすべきで、安易な模倣は排除されるべきである。

謝辞

ハルビン市都市計画局、黒竜江省、ハルビン市図書館から資料の提供を、ハルビン工業大学建築学院侯幼彬教授、黒竜江省新聞社記者曾一智氏はじめ多くの方々からご助言をいただきました。記して感謝いたします。

参考文献

- 1) 越沢明：ハル濱の都市計画，総和社 1989.4.15
- 2) 侯幼彬、張復合、村松伸、西澤泰彦：中国近代建築総覧，ハルビン篇 中国建築工業出版社 1992.3
- 3) 徐蘇寧：中国近代建築総覧・ハルビン編－ハルビン都市建築大記事－（1896-1949），中国建築工業出版社 1992.3
- 4) 西澤泰彦：図説「満州」都市物語 ハルビン・大連・瀋陽・長春，河出書房新社 1996.8
- 5) ハルビン市地方志編纂委員会：ハル濱市誌，1999.1.12
- 6) 増原城一、中野友貴、佐藤洋一、戸沼幸市：国際商業都市ハルビン・キタイスカヤの形成過程：1898-1930年，日本建築学会大会学術講演梗概集（東北） 2000.9 p621-622
- 7) 俞濱洋、陳いえ：中央大街伝統空間の保存、保護，青島市中国－スイス都市計画検討会 論文 2004
- 8) 聶雲凌：ハルビン保護建築，黒竜江省人民出版社 2005.10
- 9) ハルビン市計画局：ハルビン歴史文化城保護計画成果集，黒竜江省科学技術出版社 2007.1

注

- 1) ハルビンには、1898年に東清鉄道建設にやってきたロシア人が最初に仮の市街地を建設した香坊（しゃんふあん）区、段丘上に官庁街として建設された新市街・秦家崗（ちんじゃがん）地区、松花江沿いの低地を埋め立てた商業地として建設された埠頭区（道里区）、中国人の手によってつくられた傳家店（ふーじゃてん）、現在の道外区の四地区からなる。中央大街は道里区に、中華バロックで知られる靖宇街は道外区にある。
- 2) Local Symmetries は、C. Alexander が The Nature of Order で掲げる、空間に生命が宿るための15の属性 Fifteen Fundamental Properties のひとつである（Book One: pp. 186-194）。

[2010年2月19日原稿受理 2010年5月10日採用決定]